

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 家計調査(2012年5月)
～個人消費は好調持続～

発表日2012年6月29日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(%)

		実質消費支出(二人以上世帯)				実質可処分所得		消費性向	
		合計		除く住居等(※)		(勤労者世帯)		(勤労者世帯)	
		前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	季調値	前期比
11	1月	▲ 0.3	0.9	▲ 0.5	▲ 0.2	▲ 2.7	▲ 0.7	75.9	1.6
	2月	0.5	▲ 0.8	0.2	0.4	2.1	4.1	72.3	▲ 3.6
	3月	▲ 8.2	▲ 3.1	▲ 7.2	▲ 3.5	▲ 3.0	▲ 4.7	72.4	0.1
	4月	▲ 2.0	0.8	▲ 2.0	0.4	▲ 1.8	1.8	72.1	▲ 0.3
	5月	▲ 1.2	▲ 0.4	▲ 1.1	0.5	▲ 2.9	▲ 1.6	73.4	1.3
	6月	▲ 3.5	0.5	▲ 2.8	0.5	▲ 5.9	1.1	72.6	▲ 0.8
	7月	▲ 2.1	0.9	▲ 1.0	1.4	1.1	2.2	71.9	▲ 0.7
	8月	▲ 4.1	▲ 0.2	▲ 4.0	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 2.1	74.0	2.1
	9月	▲ 1.9	0.8	▲ 1.6	1.5	▲ 1.4	1.2	74.1	0.1
	10月	▲ 0.4	0.3	▲ 1.7	▲ 0.2	▲ 3.8	2.3	72.7	▲ 1.4
	11月	▲ 3.2	▲ 0.4	▲ 4.0	▲ 0.7	▲ 1.2	▲ 2.8	74.1	1.4
	12月	0.5	0.0	▲ 0.1	0.3	▲ 1.0	▲ 1.2	74.5	0.4
12	1月	▲ 2.3	▲ 0.2	▲ 1.4	0.8	1.4	1.3	73.7	▲ 0.8
	2月	2.3	1.8	1.9	1.4	1.8	4.6	72.2	▲ 1.5
	3月	3.4	▲ 0.1	3.3	▲ 0.4	3.7	▲ 2.7	72.9	0.7
	4月	2.6	▲ 0.8	3.3	0.2	2.3	0.2	73.0	0.1
	5月	4.0	1.5	2.7	▲ 0.3	▲ 0.4	▲ 4.2	74.6	1.6

(出所) 総務省「家計調査報告」

※「住居」、「自動車購入」、「贈与金」、「仕送り金」を除いている

○ 底堅い推移が続く

総務省から公表された5月の家計調査実質消費支出(二人以上世帯)は前年比+4.0%となり、市場予想(+2.4%)を上回った。前月比でも+1.5%(4月:同▲0.8%)と明確に増加している。エコカー補助金効果で自動車販売が好調だったことや、GWの日並びが良く、旅行等のサービス消費が好調だったことなどが寄与した模様だ。4-5月平均の水準は1-3月期を0.5%上回っており、底堅い推移が続いている(1-3月期:前期比+0.8%)。

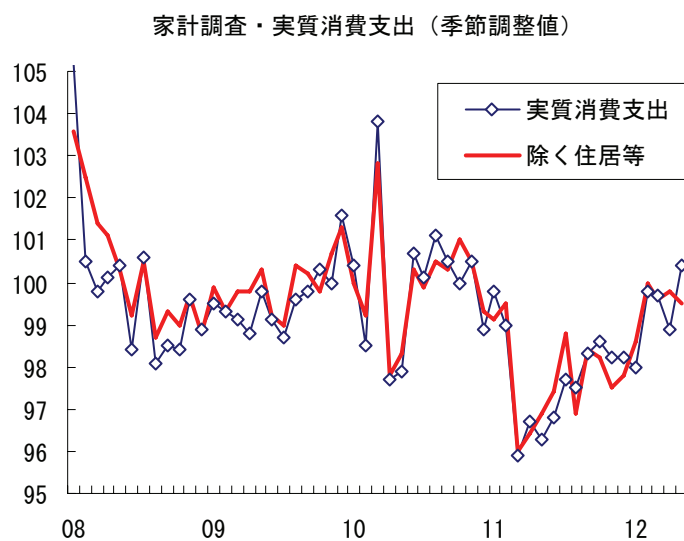
また、住居、自動車購入、贈与、仕送り金などを除いた「除く住居等」で見ると前年比+2.7%、前月比▲0.3%(4月:同+0.2%)だった。この結果、4-5月平均の「除く住居等」の水準は1-3月期平均を0.3%上回ることになる。1-3月期が前期比+1.6%と非常に高い伸びであったにもかかわらずプラスを維持しており、消費の好調が続いていることを示す結果と言って良いだろう。

○ 4-6月期の個人消費もプラスに?

4、5月の家計調査の結果が良好だったことを受けて、4-6月期のGDPベースの個人消費は前期比でプラスを維持できる可能性が出てきた。①うるう年要因の剥落により前期比で押し下げられること(GDP統計の個人消費はうるう年調整を行っていない)、②自動車による前期比での押し上げ効果が弱まること、③前期比+1.2%と高い伸びとなった1-3月期の反動、などの理由から、4-6月期の個人消費は小幅減に転じる可能性もあると見ていたが、なんとかマイナスは回避できるかもしれない。個人消費は引き続き底堅く

推移しているといっただろう。

ただ、やはり気になるのがエコカー補助金の終了だ。補助金は7～8月にも予算が尽きると言われており、終了後の反動減は不可避だろう。需要が相当程度先食いされていることを考えると、エコカー補助金終了後の個人消費は、一時的に弱含む可能性を見ておく必要があると思われる。



（出所）総務省統計局「家計調査報告」